

Okayama EU Letter

岡山EU協会会報 2014. 9

Vol. 6



★ 5周年記念行事開催など2014年度事業計画決める ★

6月16日（月）、岡山市北区の岡山全日空ホテルで2014年度6月理事会・総会を開きました。理事会後の総会には会員86人（委任状を含む）が出席。13年度事業・同決算報告を原案通り承認。14年度事業計画として欧州経済・文化をよく知るため「岡山 EU 講座」を充実させること、スマートフォンに対応するようホームページの刷新、今年が設立5周年となることから記念行事を行うことなど原案通り決めました。

記念講演では立教大学経済学部の福島清彦特任教授が「EU の現在と未来－更なる統合で危機を乗り越える」と題して講演。その後、懇親会を開き、和気あいあいと楽しいひと時を過ごしました。

〔第1号議案〕

2013年度 事業報告

1、「EU講座」を充実する

岡山EU協会が発足した翌年の2010年4月、もっと欧州の経済・文化事情を知ろうと身近な講師を招いてEU講座をスタートさせました。本年度は3回開催しました。4月、奥山秀敏(株)研美社代表取締役からイギリス発祥のダーツの歴史を学び、投げ方なども楽しく学びました。11月はチェリスト齊藤栄一さんからドイツの作曲家の人となり、弾き語りを聴き、チェロの演奏体験もしました。2月はスペインの現代アート作家のマルタ・モンカーダさんから「私とスペインと日本」について聴きました。

2、EUフィルムデーズの開催

2年ぶり2回目、香川との共催で開きました。ルクセンブルク、ラトビアなど日ごろ鑑賞の機会の少ない6カ国の映画7本を上映しました。

3、「EU Letter」の継続発行

年1回発行しています。本年度も6月理事会・総会での決定事項、総会の記念講演の要旨、ホームページに掲載したイベントレポートなどをとりまとめて発行しました。

4、岡山EU協会のホームページの充実

協会内外への情報発信強化のため2010年5月に岡山県立

大学情報工学部、デザイン学部の教授、学生の協力を得て立ち上げました。会長あいさつ、協会の会則などを常時掲載しているほか、理事会・総会、EU講座の開催日のお知らせをイベントカレンダーとして掲載、また、その結果をイベントレポートとして報告しています。他のEU協会ともリンクを張り、それぞれの活動状況が分かるようにしています。

5、駐日欧州連合代表部が行う「EUがあなたの学校にやってくる」などの受け入れ

EU加盟国の駐日大使や外交官などが2007年から毎年5月に、全国の高校に出向きEUおよび出身国の状況を説明する出張授業を行っています。本年は県立岡山一宮、県立岡山操山、県立新見、金光学園中学高等学校の4校で行われました。

6、EUとの友好促進事業の実施・共催

12月、本年度のEU協会全国総会が東京都港区の駐日欧州連合代表部で開かれ、各地のEU協会から活動状況の報告、意見交換が行われました。岡山からは古市大蔵理事、金森満廣事務局長が出席しました。

〔第2号議案〕

2013年度 決算報告

(2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31)

収支決算	収入総額	¥3,630,225
	支出総額	¥2,499,760
	差引残高	¥1,130,465 (2014年度に繰り越し)

収入の部

科目	予算額	決算額	差引額	摘要
法人会費収入	¥1,260,000	¥1,220,000	¥ - 40,000	@20,000×61
個人会費収入	¥270,000	¥235,000	¥ - 35,000	@5,000×47
総会会費	¥168,000	¥224,000	¥56,000	@7,000×32
講座会費	¥500,000	¥301,000	¥ - 199,000	EU講座参加会費 第11回13名 91,000円 第12回16名 112,000円 第13回14名 98,000円
事業収入	¥250,000	¥145,275	¥ - 104,725	EUフィルムデーズチケット売上
その他雑収入	¥150	¥199	¥49	普通預金利息収入
前年度繰越金	¥1,504,751	¥1,504,751	¥0	
合計	¥3,952,901	¥3,630,225	¥ - 322,676	

支出の部

科目	予算額	決算額	差引額	摘要
総会費	¥700,000	¥950,396	¥250,396	6/17岡山プラザホテル
事業費	¥1,700,000	¥1,348,668	¥ - 351,332	・EU講座費用 4/4第11回 153,027円 11/13第12回 290,220円 2/25第13回 221,486円 ・EUフィルムデーズ関係 683,935円
広報費	¥150,000	¥116,705	¥ - 33,295	・ホームページ維持費用 6,140円 ・会報 (EU letter) 5号発行 110,565円
事務諸費	¥100,000	¥83,991	¥ - 16,009	・通信費 37,996円 ・出張旅費 41,060円 ・消耗品費 4,620円 ・その他雑費 315円
予備費	¥200,000	¥0	¥ - 200,000	
合計	¥2,850,000	¥2,449,760	¥ - 350,240	

会計監査報告

2013年度の会計について監査を執行し、収入・支出ともに正確に記帳整理されており、帳簿・証憑書類の保管は完全であることを認める。

2014年6月2日

監事 岡崎 研 (印)
監事 西本 和馬 (印)

〔第3号議案〕 **2014年度 事業計画**

- | | |
|---|--|
| 1、欧州の経済・文化事情についての勉強会「EU講座」を充実する
2、欧州映画会「EUフィルムデーズ」の第3回開催
3、「EU Letter」の継続発行 | 4、岡山EU協会のホームページの充実
5、駐日欧州連合代表部が行う「EUがあなたの学校にやってくる」などの受け入れ
6、EUとの友好促進事業の実施・共催 |
|---|--|

〔第4号議案〕 **2014年度 収支予算書**

(2014年4月1日～2015年3月31日)

収入の部

科目	2013実績	2014予算	差引額	摘要
法人会費収入	¥1,220,000	¥1,260,000	¥40,000	@20,000×63 (5法人増強)
個人会費収入	¥235,000	¥260,000	¥25,000	@5,000×52 (5人増強)
総会費	¥224,000	¥154,000	¥-70,000	総会参加会費@7,000×22
講座会費	¥301,000	¥350,000	¥49,000	EU講座参加会費(3回開催予定)
事業収入	¥145,275	¥100,000	¥-45,275	EUフィルムデーズチケット代 @500×200枚
その他雑収入	¥199	¥200	¥1	預金利息
前年度繰越金	¥1,504,751	¥1,130,465	¥-374,286	
合計	¥3,630,225	¥3,254,665	¥-375,560	

支出の部

科目	2013実績	2014予算	差引額	摘要
総会費	¥950,396	¥600,000	¥-350,396	総会費用(会場、懇親会、講師謝礼等)
事業費	¥1,348,668	¥1,000,000	¥-348,668	EU講座費用約250,000円×3回 フィルムデーズ費用215,000円等
広報費	¥116,705	¥400,000	¥283,295	会報発行 130,000円 ホームページデザイン変更 約250,000円等
事務諸費	¥83,991	¥100,000	¥16,009	通信費、出張旅費、消耗品費、その他雑費
特別費	¥0	¥1,000,000	¥1,000,000	設立5周年記念パーティー
次年度繰越	¥1,130,465	¥154,665	¥-975,800	
合計	¥3,630,225	¥3,254,665	¥-375,560	

〔第5号議案〕 **役員を選任について**

- | | | | |
|----|-----|-------------------|---------|
| 新任 | 理事 | 一般社団法人岡山経済同友会代表幹事 | 松田 久 |
| 交代 | 副会長 | 駐日欧州連合代表部広報部長 | セーラ・ウテン |
| | 理事 | 大学コンソーシアム岡山会長 | 高木 孝子 |
| | 理事 | 岡山市長 | 大森 雅夫 |

講演要約

「EUの現在と未来 —更なる統合で危機を乗り切る—」

(6月16日 岡山 EU 協会総会、岡山全日空ホテル)

講師 福島 清彦 立教大学経済学部特任教授

福島 清彦氏の紹介



昭和19(1944)年、兵庫県生まれで42(1967)年3月、一橋大学経済学部を卒業、同修士課程を卒業後、毎日新聞経済部記者を8年間務めた。この後、米国プリンストン大学客員研究員から野村総研ニューヨーク事務所勤務、ワシントン初代事務所長などを経て平成11(1999)年、野村総研に入社、ヨーロッパ社長(在ロンドン)を務め、17(2005)年、立教大学経済学部教授、23(2011)年から特任教授を務めている。

著書は多数あり、平成7(1995)年には経済企画庁長官から第1回来佐武郎賞を受賞。また、論文も現在、月刊「文芸春秋」「中央公論」、週刊「エコノミスト」「東洋経済」などに執筆中。

はじめに

欧州での勤務の後、毎年秋には、欧州の各中央銀行総裁らが参加し、討議するユーロバンキングセミナーに参加しています。ところが一昨年以降、変化が見られるようになりました。これは、18のユーロ参加国を、二分する議論などがなされるようになったことです。

アンチ勢力躍進の今年の EU 選挙

もともと EU は、独仏の不戦を願い、ジャン・モレ氏のアイデアでスタートしました。単に経済面のみならず、福祉や人権への取り組みも同時に行うものとして発展してきました。

ところが、5月末に EU 議会選挙で、アンチ EU 勢力が勢いを増し30%を占めました。この背景には、英国では EU 脱退派が第1党に、仏では、国民戦線という極右政党が第1党になったことが挙げられます。

仏では、2017年の仏大統領選の情勢が懸念されます。右派の躍進、中道保守派は問題が多くあります。それにしても、ここまでのアンチ EU 勢力の躍進は驚きでもあります。

英国では、従来の保守党や労働党の他のイギリス独立党(UKIP)が第1党で、2014年の英国総選挙でキャメロン氏が再選された場合、EUに残るかどうかの国民投票を行う約束をしています。

平均賃金3割減のギリシャで反EU勢力が40%を占め、スペインでも反EU極左勢力が漸進しています。理由は、失業率27%、特に25歳以下の失業率58%に達していることへの不満です。このような状況が何年も続いている国は少なくありません。働く習慣のない若者は、仮に仕事についても、なかなか勤勉になれないもので深刻な問題です。

辛うじて、独と伊はユーロ統合推進派が再選されています。

4人のプレジデントの今後

そもそも EU には、EU委員長と欧州理事会議長、欧州議会議長、欧州中央銀行総裁の「プレジデント」が4人います。EU加盟国の国民は、選挙で自分の国の議員と EU 議会の議員を同時に選びます。

ルクセンブルクの前首相ジャン・クラウド・ユンカー(Jean-Claude Juncker)氏が次期EU委員長になると予想されていますが、英国は反対しています。欧州議会の議長に現在のシュルツ氏が続投するのかもしれないと注目されます。欧州中央銀行総裁は、マリオ・ドラギ氏が続投するとされています。ユーロ加盟国は財政赤字を年間3%、負債残高をGDPの60%以下に抑えるというルールがあり、緊縮財政や増税が不可避です。この基準を満たす国は11程度で、その他の国は国債を大量に発行し続けています。これによる不況で、EUの評価が下がり、直近の選挙結果に繋がったのです。

ユーロセミスターは、1-12月の会計年度を前期と後期に分けているものです。各国が統一した年間スケジュールを進めることで、より良い経済財政運営を目指します。

予算編成の最初の段階から EU に報告し、1月に欧州議会が承認、2月に経済予測、3月に危険度の高い国々を委員会がピックアップ、優先政策を決め、各国が予算に関する安定計画や経済に対する国ごとの改革計画を出します。5月に改めて経済予測し、国ごとの計画が出て、大蔵大臣が採択します。9月には翌年の優先分野を決め、10月に各国政府が協議するという日程です。

6バックと2バックで財政赤字削減へ

財政赤字削減の6つの手続きである6(シックス)バックや予算計画である2(ツー)バックに従い、予算計画とともに、3カ年の安定計画も示し、中期財政計画をつくり、各国は財政の是正を図ります。さらに、2バックでは、GDPの0.2%の利子を付け預金を目指しますが、警告が発せられた後、次の段階では罰金として徴収します。日本に例えると、GDP500兆円のうち10兆円もの規模です。

リーマンショック後、各国は財政再建のため、外資に7~8割を依存し、国債を売るなどしました。ギリシャに端を発し、スペインなどにも広がり大変な危機を招きました。

トーマス・ピケティは、貧富の格差はこれからも拡大し、富裕層の資産課税や相続税の見直しを行わなければ、経済は破綻すると言っています。資産課税15%のようにピケティが示す大胆な施策を講じないといけなほど危機的な状況です。以下、各国の状況

を説明します。

立て直しを図るイタリア

収監されたイタリアの首相ベルルスコーニは、メディア王でしたが、経済政策は皆無で、政権腐敗を招きました。特に南部は秩序が乱れ、マフィア支配の問題を抱えています。

イタリアの首相で大学学長も務めたモンティが財政の立て直しをし、欧州中央銀行総裁のドラギ氏も良い業績を上げています。39歳の元フィレンツェ市長のマッテオ・レンツィ氏が現在、首相を務め成果を上げています。

救済に国民が「待った」のドイツ

勤勉で、向上心旺盛な国民性のドイツは、東西の統合は実現したものの、教育水準の隔たりは大きく、高等教育を受けるために子どもを西側に留学させる人も少なくありません。独教育省によると、東側の高校の中には、閉鎖を余儀無くされる学校もあるそうです。

1920年ごろに始まった独の秩序自由主義が今、EU発展の妨げになっています。高い権限のあるドイツ憲法裁判所（第2上院）は、中央銀行が南欧諸国の国債を買うことに待ったを掛けました。南欧諸国救済について、7,000人もの人が訴訟したのは、違憲判断を求める国民の率直な心の現れです。判断を欧州裁判所に委ねていますが、来夏以降下される結果次第では、最貧国の救済が難しくなります。

独のこうした動きからも、EUの先行きが懸念されます。

こうした中、独は、英国にある金融の中心地を、自国の欧州中銀のあるフランクフルトに移し、欧州最大の金融センターにしたいと、画策しています。

英国の栄光ある孤立

英国は、「栄光ある孤立」という意識から、欧州大陸の国々を見下している印象があります。EU加盟も慎重で、25年もの歳月が経ってから加盟しています。EU統合の機運が高まった当時の首相も、3つのノーを唱え、「統合できない、統合できても上手くない、上手くいっても英国は加盟しない」と明言しました。「欧州にありますが、欧州に支配されない」といったスローガンが、国民感情を象徴しています。チャーチル元首相も英国は加盟しないことを前提に、「私は仏の人もベルギー人も大好きだが、英国人がこうしたレベルの低い人間になってほしくない」とまで言っています。

生き残りをかけ財政統合

しかしながら、財政統合を進めなければ、EU諸国の未来はありません。EUのバローゾ委員長も、EU憲法のなかでできるものと、EU基本条約改正をしないとできないものがあることを強く意識しているので、「究極的には新EU条約が必要」と一般教書演説で言及しています。

更に、南欧国債無制限購入の決定をしたことでユーロは安定しました。ドラギ欧州中央銀行総裁は「ユーロを安定させるために、何でもする」と言っています。



これにより伊やギリシャの国債の値段が上がり、金利が下がりました。

加えて、現在のEU予算(各国のGDPの1%を徴収)を拡大し、EU財務省を設立することを提案しています。18カ国共通の国債を発行し、高速通信網の拡充やエネルギーに投資する方向性を打ち出していますが、独などの反対で暗礁に乗り上げています。

順風満帆ではありませんが、財政統合の強化は避けられない状況です。

財政を守るため

財政を守るための施策により、赤字を抱える国債を大量保有する銀行の救済策として、欧州安定機構ESM (European Stability Mechanism、2012、10月発足) という銀行の資金援助などする制度をつくっています。ただし、あらゆる条件がつけられています。

さらに、ユーロとESMにも反対する独の党：AFGが初めて、欧州議会で7議席を獲得しています(独国内法により、独国内議会では議席なし)。独国内から、ユーロ反対派が登場することは12年前にユーロを作ったときには考えられませんでした。

金融取引税提案

バローゾ委員長は、反対する英国、スウェーデン、オランダ不参加で金融取引税を導入します。金融取引システムの恩恵を十二分に受けている金融界です。金融取引にかかる時間は7ミリ秒(1,000分の7秒)、1日当たり13兆ドルもの莫大な資金が取引されています。株・債権の0.1%、デリバティブ0.01%の収入を見込み、同時に金融の「暴走」に歯止めをかけようとしています。

今年1月には、破たん銀行の清算を行うバンキングユニオン(European Banking Union: 銀行同盟)が発足しました。

米国カリフォルニア大学バリー・アイケングリーン教授は、著書の中で「ユーロはいまよりずっと強い通貨になって、生き残るであろう」とし、ユーロの存命を予測しています。

金融・財政統合を経て、連邦制へ

金融統合を進めたEUはこれから、さらに財政の統合を行わねばなりません。財政統合の動きは2011年から始まり、ユーロセミスターの導入に加え、ユーロ共同債とプロジェクト債の発行が検討されています。独

は、金利上昇を理由に、今のところ慎重な姿勢を示しています。加えて、過度な統合は、「国家の主権を無くす」と懸念する声が上がっています。

しかし、バローゾ委員長は、同じく一般教書演説で「EUは連邦制しか生き残りの道はない。連邦制に進むことを恐れてはならない」とまで明言しています。

税制の基盤強化と危機回避

ユーロ危機の最大の要因として、1) 国際資金移動があまりにも巨額だったこと、2) 金融取引の効率化、3) 外資依存の国債消化、4) 金融機関監督放棄—の4点があり、反省しています。

提案としては、税制についても、法人税を計算する同じ法人税制基盤をつくり、EU本部の予算を7年分つって、財政の基盤強化とユーロ危機を未然に防ごうとする取り組みがなされています。EU全体としての投資をしていこうと考えています。

2020年戦略のための7大プロジェクト

2010年に採択されたEUの10年戦略では、経済成長率目標を持たず、GDPという表現もありません。雇用や技術革新、教育、気候変動、社会福祉について数値目標を掲げ、国民の福利厚生度を高めようとした。

折り返し地点になる15年までに、目標の変更も含め達成度を算出します。各目標を達成するために、7大プロジェクトを実施します。これらは、①若者の就労促進、②技術革新、③技術刷新（デジタル・ヨーロッパ）では、電子取引の統一化を図ります。④グローバル時代の産業政策、⑤資源利用効率、⑥貧困と社会的排除の撲滅、⑦新技能と職です。

さらに、商業銀行が欧州中央銀行に預けている預金に、マイナス金利をつける異次元緩和にも踏み切っています。

社会的市場経済

欧州は、戦後、社会的市場経済として、これまで発展してきました。たとえ、ユーロ危機があったとしても、立脚点は大いに評価できるものです。57年にローマ条約3条でも、「労働者の雇用機会を改善するため、社会基金を設立する」など福祉充実をうたっています。2条には、「経済発展を促進するため、共同市場を設立する」とし、この考え方からユーロに発展しています。

さらに、社会的な面では、EU憲章や社会憲章、基本的権利憲章をつかって、EU憲章では「欧州連合は、バランスのとれた経済成長と物価安定に基づき、持続可能な発展を目指して努力する。欧州連合は、大いに競争力のある社会的市場経済であり、完全雇用と社会進歩及び環境を高い水準で保護する」としています。

EUは複数の同心円

ただし、統合は同一歩調で進められません。28カ国のEU加盟国のうち、ユーロ加盟国は18カ国のみで、英国はユーロにおそらく加盟しないでしょう。欧州共同軍にスウェーデンは参加しません。パスポートなしで移動ができるシェンゲン条約には、英国とアイルランドは未加盟（EU未加盟のノルウェーが参加）です。

テーマによって、参加国が変わることが、今後は増えるでしょう。基本部分は共有しているが、重ならない部分もある、いくつかの同心円として理解されています。

ただし、2度の大战で、覇権を米国に譲ることになった欧州は、ジャン・モネ、シューマン・ブランらが描いた1つの理念のある統合体をつくってきました。ユーロ危機などによる緊縮財政が今後も続いたため、欧州は今後数年間は発展は難しいと思います。ただし、GDPではなく、個人の幸福度を優先することが、2020年戦略でうたわれています。

EUとユーロの将来

現在の28カ国から、EU加盟国は30数カ国に拡大するでしょう。バルカン半島の国々や国民投票で2度ノーと言ったノルウェーも含め、拡大した姿になるでしょう。バローゾ委員長の一般教書演説では、「連邦制を恐れるな。地平線に現れた目標で、これを抜きに、EU統合はありえない」と訴えています。

英国のアンソニー・ギデンス「Anthony Giddens著書『第3の道Runaway World』」のなかでは、難しい理屈抜きにいいところを推し進めることを提案しています。「12の理想」として、フィンランド水準の情報技術浸透度、ドイツ人の工業生産性、スウェーデンの平等性、デンマークの雇用水準、アイルランドの経済成長率、イタリア水準の料理、ハンガリーのワイン、チェコの書籍文化、仏の医療制度、ルクセンブルクの1人当たりGDP、ノルウェーの教育水準、英国の国際的な開放性、キプロスの天候などを挙げています。ギデンスが言うように、取り入れられるものは、積極的に取り入れる気概が今、必要なのではないのでしょうか。

ご清聴ありがとうございました。

お知らせ

岡山 EU 協会のホームページをリニューアルしましたので、ご覧ください。

URL: <http://okayama-eu.jp/>



イ ベ ン ト カ レ ン ダ ー

第12回EU講座 チェリスト齊藤さんが弾き語り

第12回EU講座が11月13日(水)、岡山市内のホテルで開かれ、同市在住のチェリスト齊藤栄一さんが「チェロとのひととき」と題してドイツの作曲家の人となり、チェロの魅力などについて弾き語った。会員約30人が参加、チェロの演奏体験をするなど楽しい時間を過ごした。

身近な講師、身近な話題をもとにもっとEUのことを知ろうと2010年4月から同講座が始まった。今回は同月末に岡山市内でチェロリサイタル「メンデルスゾーンとシューマン ドイツ前期ロマン派の足跡」と題するリサイタルの開催を控えている齊藤さんにそのエキスを語ってもらおうと依頼した。齊藤さんは、バッハ(1685-1750年)は6曲の無伴奏チェロ組曲を作っており、これを超えるようなものはない、メンデルスゾーン(1809-1847年)はあのゲーテがモーツァルト以上の天才と評した。チェロソナタ2曲を作っているなどと語り、その作品を実際に弾いてチェロの歴史やオーケストラでの役割を説明した。

第13回EU講座 ～わたしとスペインと日本～
現代アート作家モンカーダさん講演

第13回EU講座が2月25日(火)、岡山市内のホテルで開かれ、スペインの現代アート作家マルタ・モンカーダさんが「私とスペインと日本」と題して講演した。会員25人が出席した。日本とスペインは昨年6月から今年7月にかけて、交流400年を記念してさまざまな行事が行われている。仙台藩の伊達正宗が支倉常長ら180人を慶長遣欧使節団として派遣した年に当たるため、金森満廣事務局長が「この節目の年にモンカーダさんを迎えることができた」と紹介した。モンカーダさんはスペイン・カタルーニャ州バルセロナ市の出身で、母国と倉敷市を行き来し芸術活動を行っている。講演では、地中海に面した同州は瀬戸内海沿岸と気候がよく似ており「岡山と同様にモモが特産でロシア、ポーランド、北欧に輸出している」と話した。また、「カタルーニャはその長い歴史的背景から独自の言語、習慣を持ち、スペインからの分離独立を目指す動きも強い」と話し、スペインの王位継承者を巡って争われたスペイン継承戦争でバルセロナが落城して300年にあたる今年9月へ向けての動きに注目するよう求めた。さらにモンカーダさんは3月9日まで倉敷市児島の野崎家旧宅をメイン会場に仲間6人と「モンカーダ国際芸術祭」を開催しており「今回は竹を使ってオブジェを作った。古い民家が会場であり、日本の伝統文化とコラボレーションすることによって創作意欲は大いに刺激を受ける」と語った。



岡山南高3高校など県内でEUの出張授業

駐日欧州連合(EU)代表部による「EUがあなたの学校にやってくる」が5月12、13の両日、岡山市北区の県立岡山南高校など県下3校で開かれた。

EU加盟28カ国の大使、外交官は毎年5月に日本全国の学校を訪れ、EUや出身国について説明している。同校にはこの日、ドイツの大阪・神戸総領事館(大阪市)のフローリン・イエガー領事が訪れ、1～3年生の全校生徒1070人を前に通訳を交え講演。「第2次世界大戦の後、2度と戦争をしない思いがEU発足につながった」とEUの歴史、共通通貨ユーロ導入の経緯などについて話し、また「EUのモットーは多様性の中の統一だ」「日本とEUはともに民主主義、法治国家であるなど多くの価値観を共有する」、「EUを知る一番の方法は留学することだ」などと語った。

県内ではこの日、岡山県立井原高校に、13日は県立岡山東商業高校にベルギー大使館のセヴリーヌ・ドゥ・ポッター二等書記官が訪問、同様の授業をした。「EUがあなたの学校にやってくる」は昨年の4校より1校少なかった。



2014年度理事会・総会開催～5周年記念行事など 新年度事業計画きめる

岡山EU協会（会長・泉史博岡山経済同友会顧問）は6月16日（月）、岡山市北区の岡山全日空ホテルで2014年度6月理事会・総会を開き、今年12月に迎える創立5周年の記念事業開催を盛り込んだ本年度事業計画、予算などを決めた。

同日午後2時半、理事会が開かれ、それに続いて開かれた総会には会員86人（委任状含む）が出席、泉会長が冒頭で「欧州中央銀行が先日、民間銀行が中央銀行に預け入れる余剰資金の金利をマイナスにする施策を打ち出した。異例の措置であり、今後の景気動向を注視していきたい」とあいさつした。議事に入り、13年度事業・同決算報告を原案通り全員の拍手で承認。14年度事業計画として欧州経済・文化の勉強強化のため「岡山EU講座」を充実させる、会報「EU Letter」の継続発行のほか、欧州文化を映画で学ぶEUフィルムデーズを6月24日（火）に開催、さらに、スマートフォンに対応するようホームページの刷新、設立5周年記念事業の開催一などに取り組むこと、これら事業を実施するため総額325万円余の収支予算を原案通り承認した。総会後の記念講演では立教大学経済学部の福島清彦特任教授が「EUの現在と未来－更なる統合で危機を乗り越える」と題して講演。この後、懇親会を開き、楽しいひと時を過ごした。



第3回EUフィルムデーズ開催

6月24日（火）、岡山市北区の岡山天神山文化プラザホールで3回目の映画祭「EUフィルムデーズ2014 in岡山」が開催された。ポルトガル、エストニアといった日ごろあまり観賞の機会のない2カ国の映画2本が上映され、多くの映画ファンにご来場いただいた。

EUフィルムデーズは駐日欧州連合（EU）代表部、EU加盟大使館、各地EU協会の主催で2003年に始まった。岡山EU協会は岡山経済同友会を主体に2009年12月、全国13番目の協会として設立され、EU諸国の多様な文化を映画を通じて岡山県民に知ってもらおうと考え2011年、2013年に東京、山口、香川などととも開催してきた。岡山での上映は前回までの土日開催とは打って変わってウィークデーの夕方だったが、大勢の方にご来場いただき、岡山でもこのイベントが定着してきたことを実感した。

上映された1本目の作品「バロン」（ポルトガル、エドガル・ベラ監督、2011年）は、原作が1942年に発表されたポルトガルの作家ブランキーニョ・ダ・フォンセカの恐怖小説で、ストーリーは役人が山奥の小学校を監督するために訪れた村は独裁者バロンによって支配されていて、招き入れられた城で役人は奇怪な世界へ否応なしに引きずり込まれていく、というもの。

2本目の「ケルトゥ／愛は盲目」（エストニア、イルマル・ラーク監督、2013年）は、おとなしく引きこもりがちな主人公ケルトゥは夏至祭の日、突然姿を消すが、見つかったのは女たらしの酒飲み男のところ。なぜ彼女は失踪したのか、真実が徐々に解き明かされていくとき、周辺に大きな衝撃をもたらす、というもの。

入場料は1日券500円（中学生以下無料）で、「バロン」に76人、「ケルトゥ」に82人の観客が楽しんだ。観賞後のアンケート調査に「500円は手ごろだった」「いかにもヨーロッパを感じさせるよいフィルムだった」「企画は大変良い。上映日が短くて残念、もっと増やしてほしい」「珍しい企画なので今後も頑張ってください」という答えが多く寄せられた。



事務局だより

岡山EU協会の設立5周年記念講演会・パーティーが、2015年1月14日（水）と決まりました。講師は、チャンネル（株）リシャル・コラス社長です。会場等の詳細が決まり次第ご案内いたします。多数ご出席ください。

また、EU講座の講師をぜひご紹介ください。自薦他薦を問いません。

随時会員募集をしております。募集要項を作成いたしましたので、勧誘にご活用ください。

岡山EU協会

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-1-15
岡山商工会議所ビル5階

T E L : 086-222-0051

F A X : 086-222-3920

Eメール : info@okayama-eu.jp

U R L : http://okayama-eu.jp

担 当 : 金森 大原 太田